

生かす

真宗大谷派 存明寺通信

No.188

2019年(仏歴2550年) 1月1日発行

存明寺の永遠のテーマ



京都・東本願寺の中にある阿弥陀堂の風景



自分を悩ませている問題しか

自分を立ち上がらせる御縁はない

坂東性純(真宗大谷派僧侶)

悩みは早く乗り越えたいし、早くなくしたい…。
誰だって、そう考えるのが普通のことです。
しかし、親鸞しんらんの教えに生きた師は違います。
自分を悩ませている問題があるからこそ、
人はもがき、さぐり、訪ねるもの。
そして人は、立ち上がり、求めていく者となる。
それこそが人間の救いだというのです。

人は悩みを抱えるものです。
しかし、悩みあるがゆえに
自ら立ち上がり、自らの人生を歩んでいく存在。
そのことの確かさと力強さを
体感たいかんできる一年にしていきたいものです。
今年もどうぞよろしくお願いいたします。



真宗大谷派 存明寺 ぞんみょうじ

住職 酒井義一

存明寺HP、随時更新中 ぞんみょうじ 親鸞しんらんと出会うお寺

<http://www.zonmyoji.jp>

悲しみを聞く人・親鸞

存明寺住職 酒井義一

あたたかさが身に沁みる

寒さが本格化してきた。こんな季節に実感するのは「あたたかさ」の有難さであろう。夏や秋には感じられないが、寒さが厳しければ厳しいほど、「あたたかさ」の有難さは、身に沁みて感じるものである。

人生も同じ。つらさや苦悩があればあるほど、そのような人間を包み込む教えのあたたかさ、人間を照らし続ける光（教え）のあたたかさは、ひとときや身に沁みるものではないだろうか。

後悔や自責の念を語る人

存明寺で行なっているグリーンケアのつどいには、大切な方を亡くされた人が集まってこられる。

その中で多くの方々が心の奥にある思いを吐露される。中でも印象的なのは、後悔や自責の念を語るることである。

「なぜあの時こうしなかったのだろう」「なぜもっと早く気がつかなかったのだろう」と。そのような時、ご一緒に確かめていることは、後悔や自責の念は、亡き人との関係の深さの裏返しであるということだ。後悔や自責の念は、その人のことが「大好きだからこそ」なのだということを人々と共に確かめてきた。

私も同じ人間だ

私事で恐縮だが、83歳になる母が、10月6日の朝、脳梗塞で倒れ、救急車で病院に運ばれた。

その日、母は朝6時に起きてきた。調子が悪いと訴えた。しかし、調子が悪いのはいつものこと。しばらく様子を見ようと椅子に座らせた。そして一時間、私は母を放置した。7時になって母は突然いびきをかきだした。事の重大さに気づき、救急車を呼んだ。そして緊急手術。しかし、意識は戻らず、半身マヒ、言葉を失なった。今は

病院のベッドで寝たきりになってしまった。

私は今、とても後悔をしている。あの空白の一時間を。なぜもっと早く母の異変に気づけなかったのだろう。なぜもっと早く救急車を呼ばなかったのだろう。そのような後悔の気持ち湧いてくる。

その時に思い浮かんだのは、グリーンケアのつどいで後悔の思いを語る人々のことだった。私も同じだ。後悔という悲しみを抱えて生きる同じ人間だったのだ。そんな当たり前のことに、あらためて気がついた。

悲しみを聞く人・親鸞

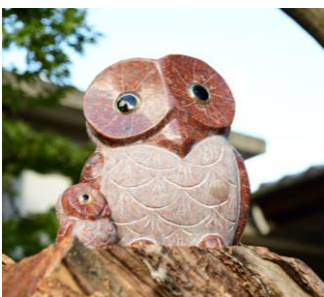
親鸞聖人は「今現在説法」をしていると言われている。それは、今現在もお法（教え）を説き続けているということだ。しかし、親鸞は、いきなり法を説かれたのではない。その前に人々の声をしっかりと聞いたのである。その親鸞のすがたを、「悲しみを聞く人・親鸞」と表現した僧侶がいた。その通りだと共感した。

親鸞は「われら」という言葉をととても大切にされた。たとえば「よ

ろずの^{ほんのう}煩惱に^{ゆいしんしやうもんい}しばられたるわれらなり」（唯信鈔文意）親鸞は、人々の悲しみの声を聞き、いろいろな煩惱に縛られて^{しば}いることを知ったのだろう。そして、その中に自分を見出し、自分に届いた教えを目の前の人に語っていった。親鸞が出会った世界は、人を下に見る「かれら」という世界なのではなく、人々との水平な関係をひらく「われら」という世界だったのである。

私もまた悲しみを抱えるひとりとして、人々と出会い、人々の声を聞きながら、親鸞が出会った「われら」という世界、すなわち共感・共苦の世界をこそ、我が世界として生きていきたい。

了



報恩講法要 写真館



サンシン片手に知花さん



本堂内陣のお荘厳



同朋唱和が基本です

おとなの修学旅行 写真館



新しい同朋会館で語り合い



法話を聞きます



東本願寺での集合写真

親鸞にどう報恩講法要

昨年(しんねん)の11月2・3日の2日間、親鸞(おんこうぼう)にどう報恩講法要が行われ、大勢の方々の参詣(さんぎ)があった。講師には沖繩(おきなわ)から知花昌一(ちかまさかず)さん(真宗大谷派(しんそうおひや)僧侶(そうりょ))をお招き(まね)し、法要(ほふ)や法話(ほふわ)・お斎(おき) (精進料理(しんじんりょうり)のお昼(ひる)ごはん)などが行われ、親鸞(おんこう)聖人(せいじん)に出会(であ)うための時(とき)が流れた。

両日(りょうにち)とも門徒(もんた)感話(かんわ)があった。それぞれ(それぞれ)の今の思(おも)いを正直(まじまじ)に語(かた)られ、参詣者(さんぎしや)の共感(きんかん)を生(な)んだ。

感話御礼

高岡(たかおか) 文子(ぶんこ)さん(2日)
井ヶ瀬(いげせ) 恵子(けいこ)さん(3日)

報恩講の法話より



* 62年(62ねん)かかったんです、親鸞(おんこう)さんに会(あ)うのに。うれしかったですね。

* いのち(いのち)という(いう)のは、どのよう(どのよう)ないのち(いのち)も生(な)きるため(ため)に生(な)まれてくる(くる)のです。

* 本来(もとま)の親鸞(おんこう)の教(くわ)えは、平和(へいわ)と平等(びやうどう)を求(もと)めていく(いく)という(いう)宗教(しゆきう)。

(知花昌一(ちかまさかず)さん)

おとなの修学旅行奉仕団

11月(じゅういちがつ)24日(にじゅうよっぴ)〜26日(にじゅうろくにち)の三日間(さんにちかん)、京都(きょうと)・東本願寺(とうほんがんじ)にておとなの修学旅行(しゆがくりょこう) (奉仕団(ほうしだん))が行(い)われ、23名(にじゅうさん)が参加(さんか)した。今回(こんかい)が8回(はちかい)目(め)となる。昨年(さくねん)夏(なつ)にリニューアル(りニューアル)した東本願寺(とうほんがんじ)の宿泊施設(しゆぱくしせつ)「同朋会館(どうぼうかいくわん)」に泊(と)まり、本山(ほんざん)報恩講法要(ほうおんこうほふ)に参詣(さんぎ)し、法話(ほふわ)を聞(き)き、語り合(か)いなど(など)が行(い)われた。

参加者(さんかしや)からは、「食事(じきじ)の時(とき)に色々(いろいろ)な人(ひと)と話(わ)せてうれ(うれ)しかった」「親鸞(おんこう)のことをも(も)っと勉(つと)強(じやう)した(した)くな(くな)った」「法話(ほふわ)の内容(ないよう)が入(い)ってき(き)て、仏教(ぶつぎやう)を身(み)近(ぢか)に感(かん)じた」など(など)の感(かん)想(さう)があ(あ)った。

出遇った言葉たち



* 地獄(じごく)は自分(じぶん)が作(つく)っている。しかし、そのこと(そのこと)に気(き)がつか(つか)ない人間(にんげん)は、懺悔(ざんげ)す(す)らおこ(おこ)らない。

* 親鸞(おんこう)も救(きう)われな(な)かった。だからこそ(こそ)、ず(ず)っと求(もと)め続(つづ)けた。それが生(な)きるとい(い)うこと(こと)だ。

* ぬくも(ぬくも)りのある(ある)、あ(あ)た(あ)た(あ)かい場(ば)所(じよ)があれば、人(ひと)はつ(つ)らい現(げん)実(じつ)をし(し)っかり(っかり)と生(な)きてい(い)ける。

(御橋博喜(ごはしひろき)教導)

お寺のひろば 2019年(平成31年)

お寺のひろば 2019

	1月1日(火)	10時	修正会 <small>しゆしよつえ</small>		
	3月9日(土)	14時	樹心の会 <small>じゆしん</small>		
	3月21日(木)	11時と13時	春のお彼岸法要 <small>ひがん</small>		
	3月30日(土)	14時	グリーンケアのつどい <small>じゆしん</small>		
	4月13日(土)	14時	樹心の会 <small>じゆしん</small>		
	4月27日(土)	10時	おみがきのつどい <small>えいたいきまつう</small>		
	5月3日(金)	12時	永代経法要 <small>えいたいきまつう</small>		
	5月18日(土)	14時	樹心の会 <small>じゆしん</small>		
	6月8日(土)	14時	樹心の会 <small>じゆしん</small>		
	6月22日(土)	14時	グリーンケアのつどい <small>にいぼん</small>		
	7月6日(土)	11時	新盆法要 <small>にいぼん</small>		
	7月13日(土)	11時と13時	お盆法要 <small>ぼん</small>		
	8月31日(土)	午後	青年のつどい <small>じゆしん</small>		
	9月7日(土)	14時	樹心の会 <small>じゆしん</small>		
	9月23日(月)	11時と13時	秋のお彼岸法要 <small>ひがん</small>		
	9月28日(土)	14時	グリーンケアのつどい <small>じゆしん</small>		
	10月12日(土)	14時	樹心の会 <small>じゆしん</small>		
	10月26日(土)	10時	おみがきのつどい <small>ほうおんこう</small>		
	11月2日(土)	14時	報恩講のゆうべ <small>ほうおんこう</small>		
	11月3日(日)	12時	報恩講法要 <small>ほうおんこう</small>		
	11月9日(土)	14時	樹心の会 <small>じゆしん</small>		
	12月14日(土)	14時	樹心の会 <small>じゆしん</small>		
	12月21日(土)	14時	グリーンケアのつどい <small>じゆしん</small>		

◎ぞんみようじこども会 月一回
 ◎ぞんみようじこども食堂 月一回
 ◎子育てサロンいちごのへや 月一回
 ★どうぞお気軽にご参加下さい。



おとなの修学旅行 2018 同朋会館のロビーにて

1月のお寺の掲示板

如来の本願は
 風のように
 身に添い
 地下水の如くに
 流れ続ける

(平野 修)

【あとがき】

▼この「あとがき」はすべての原稿が完成した一番最後に書くようにしている。スラスラと書ける時もあるが、いくら考えても何も浮かんでこない時もある。実は…今回がそれなのである。

▼時は年末。やらなければならぬことは他にもいっぱいある。それに年内に印刷をするためにはもう時間がない。いくら焦っても「あとがき」に何を書くべきか、一向に浮かんでこないのだ。うーくん、どうしよう。

▼そんな時、いいことを思いついた。それら今までのことを書いてみよう、と。するとものの5分もしないうちに「あとがき」が完成した。めでたし、めでたし。

▼そんなこんなでバタバタと年末を過ごしながら、やつと迎える新年です。皆さんはどのような新年をお過ごしでしょうか。

▼存明寺は、今年も出会いと学びがあふれる人々の居場所となることを目指していきます。今年も変わらずによくお願いします。

(住職 釋諦信)



東京都世田谷区北鳥山4-15-1
 真宗大谷派 存明寺
 住職 酒井 義一(釋諦信)
 〒157-0061 TEL 03-3300-5057
 FAX 03-3300-5880
 E-mail : sakai@zomyoji.jp